

2019年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧表

看護学科

教育内容		科 目	担当教員名	履修学年及び時間数			実務経験担当		実践的な教育内容
				1 年	2 年	3 年	単位数	時間数	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	<u>看護学概論</u>	北村美穂子	30			1	30	一般病院での勤務経験のある教員の授業
		<u>看護過程</u>	東田奈津子	30			1	30	一般病院での勤務経験のある教員の授業
		<u>基礎看護技術Ⅳ</u>	京井しのぶ	30			1	30	一般病院での勤務経験のある教員の授業
専門分野Ⅱ	成人看護学	<u>成人看護学Ⅰ</u>	岡田和江	15			1	15	一般病院での勤務経験のある教員の授業
		<u>成人看護学Ⅵ</u>	岡田和江		15		1	15	一般病院での勤務経験のある教員の授業
	老年看護学	<u>老年看護学Ⅰ</u>	東田奈津子	30			1	30	一般病院での勤務経験のある教員の授業
		<u>老年看護学Ⅲ</u>	東田奈津子		15		1	15	一般病院での勤務経験のある教員の授業
	母性看護学	<u>母性看護学Ⅰ</u>	金石千恵子	30			1	30	産婦人科病棟・授産院での勤務経験のある教員の授業
		<u>母性看護学Ⅲ</u>	金石千恵子		15		1	15	産婦人科病棟・授産院での勤務経験のある教員の授業
			合 計	165	45		9	210	

授 業 内 容 (シラバス) 2019 年度 (22 期生 1 年生)

授業科目	専門分野Ⅰ	講師名	北村 美穂子	授業形態	講義	時 期	前 期
	看護学概論		実務経験有			単位数（時間数）	1（30）
【授業目標】 1. 近代看護の成り立ちについて理解する 2. 看護の役割と機能を理解する 3. 看護の主要概念（人間・環境・健康・看護）について考える 4. 我が国における看護の発展と今後の発展について理解する 5. 看護実践における倫理的問題について考える 6. 看護の提供の仕組みについて理解する 7. 広がる看護の活動領域を理解する[授業目的]							
[授業内容・授業の流れ]							
1	看護の歴史の変遷について （ナイチンゲール・ヘンダーソンについて学ぶ）						
2	さまざまな理論家による看護のとらえ方について グループワーク（ロイ・オレム・トラベルビー・ペプロウ）						
3	看護におけるケアについて ・看護実践の質の保証に必要な要件と看護の継続性について ・多職種連携・協働について						
4	看護の対象について ・人間の心と体を理解する						
5	看護の対象について ・成長発達しつづける存在として人間を理解する						
6	看護の役割について ・生活者である人間に対して、看護はどのような役割を果たすか理解する						
7	健康とはなにか 健康をどのようにとられるべきかを理解する 障害とはなにか 障害をどのようにとらえるべきかを理解する						
8	国民全体の健康と生活の全体像を、主要な公的統計の結果から把握する						
9	我が国における看護職の成立と発展、現在のかたちになるまでの経緯を理解する						
10	我が国の看護職者の就業状況と免許取得後の継続教育の概要について理解する						
11	倫理とはなにか 看護職を目指すなかで、なぜ倫理を学ぶ必要があるのか理解する						
12	医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマの解決にどのように取り組むべきかを理解する						
13	チーム医療に携わるさまざまな職種を把握し、チームの機能を理解する						
14	看護に関わるさまざまな法制度とそれらがつくられる過程について理解する						
15	筆記試験（45分）・講義のまとめ						
〈評価の方法〉 出席時間・受講態度 GWの取り組み 筆記試験・レポート出席時間			受講上の注意： 積極的に授業に参加 グループワーク：積極的に参加する。他者の意見を聞き入れ、自己の考えを論理的に述べる				
[使用テキスト・参考文献等]							
系統看護学講座 専門分野Ⅰ看護概論 基礎看護学 医学書院 日本看護協会 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン							

授 業 内 容 (シラバス) 2019年度 (22 期生 1 年生)

授業科目	〔専門分野Ⅰ〕	講師名	東田 奈津子	授業形態	講義演習	時 期	後 期
	看護過程		実務経験有			単位数（時間数）	1（30）
【授業目標】 １．看護過程とは何かを理解する ２．看護過程を展開するための考え方を理解する ３．看護過程の段階を理解する ４．看護診断の基本的知識を理解する							
【授業内容・授業の流れ】							
1	看護過程とは何か、看護過程を展開する目的 看護過程の構成要素、構成要素の関係性						
2	看護過程を展開する基盤となる考え方 問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的配慮と価値判断、リフレクション						
3	アセスメント（情報収集） 情報収集とは、看護理論に基づいたアセスメントの枠組み（ゴードン・ヘンダーソン） 情報収集の方法・手段、情報の種類						
4	アセスメント（情報の分析） 情報が持つ意味を考える、知識の活用、理論の活用、情報分析をする力						
5	全体像 関連図、全体像とは						
6	看護問題の明確化 看護が扱う問題、看護問題の明確化 看護診断名の意味と種類、関連因子、診断指標						
7	看護問題の明確化 フォーカスアセスメント						
8	看護問題の優先順位、プロブレムリスト、医療問題						
9	看護計画 期待される成果の明確化（看護目標）と表し方						
10	看護計画 看護計画の表記・個別性						
11	標準看護計画 クリティカルパス						
12	評価 評価をする意味、時期、進め方						
13	看護過程における記録の種類						
14	看護サマリー						
15	筆記試験（45分）・まとめ						
〈評価の方法〉 出席状況 筆記試験			受講上の注意： ・授業、演習などでの私語は慎み、受講する ・積極的に質問をして学びが深まるようにしてください				
【使用テキスト・参考文献等】 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（ヌーベルヒロカワ） NANDA 看護診断ハンドブック（医学書院）							

授 業 内 容 (シラバス) 2019年度 (22 期生 1 年生)

授業科目	[専門分野Ⅰ]	講師名	京井 しのぶ	授業形態	講義演習	時 期	後 期
	基礎看護技術Ⅳ		実務経験有			単位数（時間数）	1（30）
【授業目標】							
1. 健康の維持増進を目指す対象の特徴がわかり、必要な看護を理解する 2. 急性期・慢性期・リハビリテーション期の患者・家族の特徴がわかり、必要な看護を理解する 3. 健康を支える指導（学習支援）の意義を理解する 4. 健康を支える指導（学習支援）技術を理解し、具体的な方法を考える							
【授業内容・授業の流れ】							
1	健康とは・ヘルスプロモーション（概念、健康行動の変容を説明するモデル） 一次的予防、二次的予防、三次的予防 健康各期の理解 健康保持増進を目指す人々への看護（ニード・看護援助）						
2	急性期の特徴・急性期の患者・家族の理解と看護 GW（発表を含む） 急性期の患者家族を理解するためのの概念（ストレスコーピング、危機理論、自己概念）						
3	慢性期の特徴、慢性期の治療の特徴 慢性期の病状から捉えた経過、慢性期の受容の段階						
4	慢性期の患者・家族の理解と看護 GW（発表を含む） アドヒアランスの考え方、慢性期におけるチーム医療の目的						
5	リハビリテーション期の特徴・リハビリテーションの目指すもの（QOL・自立支援・セルフケア含む） リハビリテーション期の患者の看護に必要なチームアプローチ						
6	リハビリテーション看護の専門性 生活機能障害のアセスメント（ICF モデル・ADL・エンパワーメントの概念） リハビリテーション期の患者・家族の理解と看護 GW						
7	GW のつづき（発表を含む） 協働的パートナーシップ						
8	看護における学習支援（指導）の意義 看護における（様々な場・健康状態に応じた指導）指導						
9	個人を対象にした学習支援（指導） 指導を前に知っておかなければならない患者情報 GW（発表を含む）						
10	集団を対象にした指導 指導の実際を計画する						
11	指導計画（事例を用いて） GW						
12	指導計画 GW の続き						
13	指導計画 GW の続き						
14	指導計画の実施 1 G 10 分 感想 2 分						
15	筆記試験（45 分）・実施した指導の講評・まとめ						
〈評価の方法〉 筆記試験 GW の取り組み（提出物）				受講上の注意： ・積極的・主体的に授業に参加する ・予習、復習を怠らない ・グループワークは積極的に参加する			
【使用テキスト・参考文献等】							
経過別看護について：臨床看護総論		基礎看護学④（医学書院）					
指導技術について：基礎看護技術Ⅰ		基礎看護学②（医学書院）					

授 業 内 容 (シラバス) 2019 年度 (22 期生 1 年生)

授業科目	[専門分野Ⅱ]	講師名	岡田 和江	授業形態	講義	時 期	後 期
	成人看護学Ⅰ		実務経験有			単位数（時間数）	1（15）
【授業目標】							
１．成人期のライフサイクルにおける成長発達を理解する ２．成人期保健の動向を理解する ３．成人看護の特徴を理解する ４．成人看護に使用される理論について理解する ５．成人看護における倫理的課題について理解する							
[授業内容・授業の流れ]							
1	成人期の対象を理解する GW：成人期のイメージ 成人期の患者のイメージ (発表も含む)						
2	成人看護学の援助論						
3	成人保健の動向（人口構成の変化、平均寿命の延長、有訴率の実態、受療率の状況、死亡動向）						
4	ライフサイクルの中での成人期の位置づけ 成人各期の特徴と発達課題						
5	健康レベルにおける対象の特徴 成人看護における対象使用される理論 (ニード論、ケアリング、ストレス理論、危機理論)						
6	成人看護における対象使用される理論 (生体侵襲理論、セルフケア理論、自己効力理論、適応理論、エンパワーメント、健康モデル、アンドラゴシー、家庭看護理論、不確かさ、アドヒアランス、痛みの軌跡、代替・相補療法)						
7	成人看護における倫理 成人期にまつわる今日的課題 看護者の倫理上の意思決定の基準 看護者の倫理綱領						
8	筆記試験						
〈評価の方法〉 出席状況 共同学習の参加状況 筆記試験			受講上の注意： ・授業、GWには積極的に取り組むこと				
[使用テキスト・参考文献等] 成人看護学概論（ヌーベルヒロカワ）							

授 業 内 容 (シラバス) 2019年度 (21期生 2年生)

授業科目	[専門分野Ⅱ]	講師名	岡田 和江	授業形態	講義演習	時 期	後 期
	成人看護学Ⅵ		実務経験有			単位数（時間数）	1（15）
【授業目標】 成人期における看護過程の展開を学ぶ							
[授業内容・授業の流れ]							
1	成人看護学における看護過程の展開について理解できる （成人期の特徴を生かした看護過程の考え方、特徴）事例紹介						
2	事例の基本情報・健康障害・心理・社会的情報を、情報整理シートに整理できる （ゴードンの機能的健康パターン）						
3	整理された情報を分析し、情報の関連性を考える（関連図） （データベースアセスメント、関連図）						
4	対象者の全体像を把握し、顕在する看護問題や潜在する看護問題が抽出できる （フォーカスアセスメント、看護上の問題の明確化：NANDA 看護診断）						
5	看護問題の優先順位を考えることができる （プロブレムリスト）						
6	成人期の看護の特徴を踏まえ、看護目標を設定することができる （長期目標・短期目標）						
7	成人期の対象の特徴を理解し、対象者に応じた看護計画を立案することができる （O-P、T-P、E-P を 5 W1H で記入できる）						
8	まとめ・課題の提出						
〈評価の方法〉 出席状況 課題・提出物の提出状況			受講上の注意： <ul style="list-style-type: none"> ・事例の解剖生理、病態生理、標準看護について学習する ・指定された提出日に課題・提出物を提出する（期限を守る） ・提出物に記載されたコメントについて、適宜見直し修正する ・必要に応じ授業中個人指導を行う。積極的に質問するなど、主体的に課題に取り組む 				
[使用テキスト・参考文献等] 成人看護学概論（NOUVELLE HIROKAWA） ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程と看護診断（ヌーベルヒロカワ） NANDA－I 看護診断 定義と分類（医学書院）							

授 業 内 容 (シラバス) 2019年度 (22 期生 1 年生)

授業科目	[専門分野Ⅱ]	講師名	東田 奈津子	授業形態	講義演習	時 期	後期
	老年看護学Ⅰ		実務経験有			単位数（時間数）	1（30）
【授業目標】 1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解する 2. 高齢者のライフスタイル・生活について理解する 3. 高齢者を取り巻く社会との関係性や社会システムについて考える 4. 健やかに老いる高齢者の多様性について考える 5. 生理的機能低下について理解する							
【授業内容・授業の流れ】							
1	老年看護とは（成り立ち、定義） 老いるということ（高齢者の定義、発達理論・発達課題）						
2	高齢者における生理的機能低下を理解する 高齢者疑似体験						
3	高齢者における生理的機能低下を理解する 高齢者疑似体験つづき 課題レポート：高齢者疑似体験からの学び						
4	高齢者における生理的機能低下を理解する DVD の視聴：おばあちゃんの家 課題レポート：DVD を視聴して気付いたこと・考えたこと						
5	超高齢社会の現況 高齢化率、高齢者と家族、高齢者の健康状態高齢者の死因、高齢者の暮らし						
6	高齢社会における保健医療福祉の動向 保健医療福祉制度の変遷 高齢者医療のしくみ						
7	高齢者の権利擁護 エイジズム、アドボカシー、高齢者虐待防止法の目的 高齢者虐待（定義、実態、種類、発生要因、予防）						
8	高齢者の権利擁護 身体拘束（定義、例外 3 原則） 権利擁護のための制度（成年後見制度、日常生活自立支援事業）						
9	高齢者の身体的な加齢変化とアセスメント						
10	高齢者の身体的な加齢変化とアセスメント						
11	高齢者の身体的な加齢変化とアセスメント						
12	老年看護の役割と特徴 老年看護における理論、概念						
13	課題：高齢者に対する生活史の聞き取り 課題をもとに GW をして学びを共有する						
14	GW の発表						
15	筆記試験（45 分）・まとめ						
〈評価の方法〉 出席状況 課題（ループリックに基づいて） 演習・GW の参加状況 筆記試験			受講上の注意： ・高齢者疑似体験、GW に積極的に参加し、自分の意見を発言する ・授業、演習などでの私語は慎み、受講する				
【使用テキスト・参考文献等】 老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾病論（医学書院） 国民衛生の動向 厚生労働統計協会							

授 業 内 容 (シラバス) 2019年度 (21期生 2年生)

授業科目	[専門分野Ⅱ]	講師名	東田 奈津子	授業形態	講義演習	時 期	後期
	老年看護学Ⅲ		実務経験有			単位数 (時間数)	1 (15)
【授業目標】 老年看護における看護過程の展開を学ぶ							
【授業内容・授業の流れ】							
1	老年看護における看護過程の展開について理解できる (高齢者の特徴を生かした看護過程の考え方、特徴について) 事例紹介						
2	事例の基本情報・健康障害・心理・社会的情報を、情報整理シートに整理できる (ゴードンの機能的健康パターン)						
3	整理された情報を分析し、情報の関連性を考える (関連図) (データベースアセスメント、関連図)						
4	対象者の全体像を把握し、顕在する看護問題や潜在する看護問題が抽出できる (フォーカスアセスメント、看護上の問題の明確化：NANDA 看護診断)						
5	看護問題の優先順位を考えることができる (プロブレムリスト)						
6	老年看護の特徴を踏まえ、看護目標を設定することができる (長期目標・短期目標)						
7	老年期の対象の特徴を理解し、対象者に応じた看護計画を立案することができる (O-P、T-P、E-P を 5 W1H で記入できる)						
8	まとめ・課題の提出						
〈評価の方法〉 出席状況 課題・提出物の提出状況			受講上の注意： ・解剖生理、病態生理、標準看護について学習する ・指定された提出日に課題・提出物を提出する (期限を守る) ・提出物に記載されたコメントについて、適宜見直し修正する ・必要に応じ授業中個人指導を行う。積極的に質問するなど、主体的に課題に取り組む				
【使用テキスト・参考文献等】 老年看護学 (医学書院) 老年看護 病態・疾病論 (医学書院) ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程と看護診断 (ヌーベルヒロカワ) NANDA－I 看護診断 定義と分類 (医学書院)							

授 業 内 容 (シラバス) 2019年度 (22 期生 1 年生)

授業科目	[専門分野Ⅱ]	講師名	金石千恵子	授業形態	講義演習	時 期	後期
	母性看護学Ⅰ		実務経験有			単位数（時間数）	1（30）
【授業目標】 1. 母性看護の対象（ライフサイクル各期）を理解する 2. 母性看護の概念と必要な理論を理解する 3. 母性の健康と社会の動向を理解する 4. 現代社会における母性保健をめぐる課題を理解する 5. 母性看護における倫理的問題を理解する							
[授業内容・授業の流れ]							
1	母性看護とは（母性および父性とその役割、母性看護の対象、母性看護活動の場）						
2	母性看護に役立つ概念と理論 母親役割・母子関係に関係する概念と理論、母親とその家族への援助に関する概念と理論						
3	母性看護に役立つ概念と理論 乳幼児の成長発達に関する概念と理論						
4	母性の健康と社会 母子保健に関わる人口動態統計、母子の健康に関わる法律・制度の変遷 母子の健康支援施策						
5	セクシュアリティ（概念、性意識、性行動）						
6	現代社会における母性保健をめぐる課題 児童虐待と母（父）の実際を子関係の課題、10代の性がもたらす問題の多様性						
7	現代社会における母性保健をめぐる課題 子育て支援、DV、性同一性障害						
8	女性の生涯における身体の変化（思春期・成熟期・更年期・老年期）						
9	女性の生涯と心理・社会的発達（女性としての心の発達、家族における女性の役割、社会経済と女性）						
10	ライフサイクルにおける女性の健康と看護（思春期・成熟期）						
11	ライフサイクルにおける女性の健康と看護（更年期・老年期）						
12	女性とヘルスプロモーション（STDと予防行動、嗜好品、望む妊娠・望まない妊娠と予防行動）						
13	リプロダクティブヘルス/ライツ						
14	母性看護における倫理的問題						
15	筆記試験（45分）・まとめ						
〈評価の方法〉 出席状況 GWの参加状況 筆記試験			受講上の注意： ・GWを行うときは積極的に参加し、自分の意見を発言する ・授業、演習などでの私語は慎み、受講する				
[使用テキスト・参考文献等] 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護（メヂカルフレンド社） マタニティサイクルにおける母子の健康と看護（メヂカルフレンド社）							

授 業 内 容 (シラバス) 2019年度 (21期生 2年生)

授業科目	[専門分野Ⅱ]	講師名	金石千恵子	授業形態	講義演習	時 期	後期
	母性看護学Ⅲ		実務経験有			単位数（時間数）	1 （15）
【授業目標】 母性看護における看護過程の展開を学ぶ							
【授業内容・授業の流れ】							
1	母性看護における看護過程の展開について理解できる （母性看護の特徴を生かした看護過程の考え方、特徴について）事例紹介						
2	事例の基本情報・健康障害・心理・社会的情報を、情報整理シートに整理できる （ゴードンの機能的健康パターン）						
3	整理された情報を分析し、情報の関連性を考える（関連図） （データベースアセスメント、関連図）						
4	対象者の全体像を把握し、顕在する看護問題や潜在する看護問題が抽出できる （フォーカスアセスメント、看護上の問題の明確化：NANDA 看護診断）						
5	看護問題の優先順位を考えることができる （プロブレムリスト）						
6	母性看護の特徴を踏まえ、看護目標を設定することができる （長期目標・短期目標）						
7	妊娠期・分娩期・産褥期の対象の特徴を理解し、対象者に応じた看護計画を立案することができる （O-P、T-P、E-P を 5 W1H で記入できる）						
8	まとめ・課題の提出						
〈評価の方法〉 出席状況 課題・提出物の提出状況			受講上の注意： ・解剖生理、妊娠期・分娩期・産褥期・標準看護について学習する ・指定された提出日に課題・提出物を提出する（期限を守る） ・提出物に記載されたコメントについて、適宜見直し修正する ・必要に応じ授業中個人指導を行う。積極的に質問するなど、主体的に課題に取り組む				
【使用テキスト・参考文献等】 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護（メヂカルフレンド社） マタニティサイクルにおける母子の健康と看護（メヂカルフレンド社） ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程と看護診断（ヌーベルヒロカワ） NANDA－I 看護診断 定義と分類（医学書院）							